

特集の意図

脳の中ではさまざまな機能がひしめき合っていて、なんらかのきっかけである機能が失われるとその部分に他の機能がせり出してくることがあり、この現象を河村は「おしくらまんじゅう仮説」として捉える。本特集ではこの仮説を切り口に、脳損傷や ADHD の経験者に自身を語ってもらった。また、神経科学者・池谷裕二氏と河村 満氏の対談を収録。脳機能から言語、時間、さらにはダイバーシティにまで話が展開していく。誰もが持つ「でこぼこの脳」で何が起きているのか、「正常と異常」「障害と特性」という二元論に一石を投じる。

特集の構成

1. 【対談】誰もが「でこぼこの脳」を持っている（池谷裕二×河村 満） 「おしくらまんじゅう仮説」をもとに、言語や時間がどのように脳を支えているかを議論する。脳機能に起因する人の特性を個性と考え、ダイバーシティをどう考えるかにも言及する。
2. せめぎ合う脳機能 — サヴァン症候群と「おしくらまんじゅう仮説」（河村 満, 他） 自閉性サヴァン症候群、獲得性サヴァン症候群の症例から、脳機能障害を負った患者に目覚ましい能力が見られることを紹介し、「おしくらまんじゅう仮説」を提示する。また、経頭蓋磁気刺激により人為的に脳機能の向上を示す実験を紹介する。
3. 脳損傷からの回復（関 啓子） 高次脳機能障害の専門家である著者は脳梗塞を患い、発話障害や左半側空間無視などの高次脳機能障害を持つ者となった。当事者セラピストの視点から、発症時の状況や出現した症状、経過・対応を詳述する。また、発症前に得意としていた頭の中の算盤を用いた計算や数唱能力を取り戻すなど、fMRI を用いて自身を対象として行った研究をもとに、発症から回復に至るまでの経緯を紹介する。
4. ADHD があっても QOL を高める方法（高山恵子） ADHD 傾向を持ちながら起業家として成功する者は少なくない。注意力や集中力が欠けるといった「でこぼこの脳」によって生み出される個性は、捉え方や場面によって見え方も異なる。ADHD の特性に対し否定が続くと二次障害を生むことから、QOL の向上のためには「何でもできると思わないこと」「失敗を受け入れ、プラス思考に変えること」など特性の捉え方が重要である。そのために有用な方法論を紹介する。
5. 斎藤茂吉の病跡（菊池雷太） 歌人、精神科医として名を遺す斎藤茂吉の病跡を写真や資料をもとにたどる。多岐にわたる才能を持つ茂吉にも紆余曲折があった。その人生を送る中で茂吉の脳ではどのようにおしくらまんじゅうが行われていたのかを考える。